

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101169		
法人名	日本海観光株式会社		
事業所名	グループホーム敬愛苑 Aユニット		
所在地	島根県松江市寺町198-57ポートピア松江ビル4階		
自己評価作成日	令和3年11月13日	評価結果市町村受理日	令和3年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和3年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・苑内を利用した散歩やレクリエーション活動、弁当を食べたり雨天であっても運動会等を実施できる。</li> <li>・利用者様からやりたいことのクエストがあれば、出来るだけ実現しようとしている。</li> <li>・食べたいもののクエストをとったり、夜にノンアルコールビールやジュースを飲んで楽しむ時間がある。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は2ユニットそれぞれの利用者の状態を把握し、日々コミュニケーションを図りながら利用者が穏やかにいきいきと生活出来る様に支援している。コロナ禍で思う様に外出が出来ない分毎日の生活の中に午前、午後の苑庭の散歩、リハビリ体操、ダーツ、ボーリング、夜会にて「びっくりバー」と称し利用者が店主となりノンアルコールビール等の飲み物をふるまう等楽しめる場面を工夫している。職員は研修や勉強会で多くの学びを得ながら成長に繋げている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼にて唱和している。 年度初めに、会議の中で、理念について話したり、介護ケアについて振り返る際にも理念を意識してもらうよう努めている。	掲示や唱和をして常に理念を意識し、利用者の状況に合わせた支援を行っているか話し合い取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所へ散歩に出かけたり、行事の際にはテイクアウトをお願いしたり、買い物に出かけたりしている。同じ建物内にあるカラオケにも参加している。	コロナ禍で外出制限はあるが、人通りが少ない馴染みの路を散歩している。近隣の飲食店から出前料理を届けて貰う事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の災害時の一時避難所になっている。 コロナ禍の為、現在は行っていないが、コロナ禍にため町内会や会議等の使用に活用してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、R2年3月より文書による情報提供のみ行っている。 以前家族からの要望で家族参加型のイベントを希望され、実際に鍋パーティーを行った。	会議開催は今の所出来ないが、書面で日頃の細かな事業所の状況を報告して地域の情勢、様子、参考意見を貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社協との協力体制により、関係性が途切れていた家族と再び連絡をとることができた。 市町村担当者とも確認させてもらいながら制度利用者への対応をしている。	感染症対策、社会保険制度の活用の手続きの方法等ファクス、電話で日頃から相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束虐待防止委員会にて話し合う機会をつくり研修を適宜行っている。 定期的にセンサー使用についても話し、見直しを行っている。	権利擁護研修会等内部、外部での学習会に参加している。事例に沿って検討し利用者の行動を理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加し、苑内での研修に繋げている。 不適切なケアがあれば、会議等で話し合いケアに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑の利用しておられる方を照らし合わせて、施設内にて、制度についての研修を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前から施設内を見学して頂いたり説明する機会を設けている。 解約・改定等にも随時、文書にて同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見交換をもらっていたがR2年3月よりコロナ禍の為中止し、情報提供のみ行っている。 家族来苑時やTELにて家族の意向を聴いている。又、LINEを活用し家族からの情報共有や意見を頂いている。	「敬愛苑便り」の送付、電話でのやり取り、テレビ電話、動画で家族に状況を伝えている。 家族から服装の事や運動をさせて欲しいとの要望があり活動に体操を取り入れ支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	敬愛苑会議・ユニット会議・定例会議・各委員会で話し合う場を作っている。 その他日々の要望に対応している。職員からの希望にて10:00～19:00勤務の変則勤務を新たに設けた。	日常のケアの中で些細な事でも報告し合い何でも話せる職場の雰囲気がある。職員も利用者と共に楽しんで働く事が出来る様に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育てや介護の為に夜勤や勤務形態について配慮している。 資格取得についても金銭面での補助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修についての年間計画を立て外部、内部研修を行っている。外部からの講師を招き研修を行った。面談を行い、日々の目標について一人一人話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームや居宅等にパンフレットを配布したり日々の活動状況を報告している。 施設外の研修に参加することにより、情報を得て業務にも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人への確認と現状の本人をよく知る人からも好きだったこと大切にしていたこと等を教えて頂いている。海が好きだったら海を見に行く機会を作る等の支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・歩く力を維持してほしい ・できるだけ精神薬は飲ませないでほしい ・面会すると不穏になるから距離を少し置かせてほしい 等の心配事に対応してきた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安、心配が強い利用者様の場合、不安出現時には一緒に歩き、お話し、家族への電話等も可能か等相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から人生の教訓を受けたり、施設で必要なものを一緒に作ったり、行事で食べるものを一緒に考えたり、TVの番組など日常的に相談し、生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	不安感が強いときに家族へのTEL依頼を取り入れたり、家族をサービス実行者の一人に加えたプランを作成したり、家族の希望でもあった孫の卒業式への参加を目標に取り組まれているケースもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在難しいこともあるがTELやTV電話を行ったり、子供のころ住んでいた場所や、昔働いていた場所へ散歩に行ったりしている。リモート墓参りをされたケースもあった。	馴染みの人の来訪は今は控えて貰っているが近くの神社への参拝や懐かしい場所へドライブに出掛けている。携帯電話で知人、友人と話している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフで相談して良い関係が持てるよう席替えを行っている。飲み屋で働いていた方にはみんなにお茶を配って声掛けしてもらったり、お寺におられた方にはみんなの分のお茶を湯のみについで頂いたり、抹茶を点でて頂いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族へのTEL、その後の体調を聴いたり、家族の心配事を聴いたりしている。また、別の施設での面白いレクリエーションや取り組みを家族が教えて下さり、当苑にも取り入れている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	さみしいと言われる方には夜遅くまでリビングで過ごしていただいたり、居室で読書が好きな方には職員や家族が本を持参して頂いた。家族にこれまでのその方の暮らしについて紙に書けるだけ書いて持ってきてもらうこともあった。	普段の会話の中での言葉から話を拡げたり、家族から以前の様子を聞いて興味を持っている事を知り本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのお話や、家族、ケアマネ、相談員、施設等から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳細に記録が残っており、その方が一日どのようにして過ごしたか分かるようになっていいる。表情や発言も記録している。新しいレクや手伝いに参加したときはどのような様子だったかを記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の思いを尊重し看護師や主治医の意見を聞き、会議にて話し合いをして、利用者が安心して楽しみのある生活となるよう定期的にケアプラン見直し、作成している。	利用者、家族からの要望、意見を聞き、関係者からも意見を聞いて楽しみ事、得意とする事を含めた介護計画を作成している。状況に応じてプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況や様子等、ケース記録や連絡ノートに記録し、スタッフ間での情報共有に努めている。それに基づき介護計画の見直しやケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族には苑便りや面会時、電話で状況の報告や要望等を聞き、それに対して出来る限り柔軟にサービスの提供をする様、コロナ禍の中様々な制限があるが、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為外食はできないが、地域へ出かけ、利用者と共に買い物に行き、苑へ持ち帰り食事を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を尊重し、今までのかかりつけ医や希望の病院の受診・往診を受けて頂いている。	希望の医師の受診を支援している。眼科、整形外科等の専門医受診は基本的には家族同行だが依頼があれば職員が同行して対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理、状態変化に応じた支援を行えるよう努めている。 利用者の病名をもとに介助のポイントやアドバイスを聞き、ケアに反映させている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法に関する情報提供を医療機関にしている。家族を通じて状況を聞いたり、退院前にも看護師等から情報を聞いたり、場合によっては入居の際に医療機関からのアドバイスを受けるため病院へ訪問している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをしている事、重度化した場合の対応について説明をし同意を得ている。 医師の診断と家族の希望にて看取りケアを行っている。医師や看護師と連携し情報共有しながらチームケアが出来るよう取り組んでいる。	入居時に事業所の終末期の取り組みを説明し意向を確認している。今年度一人の看取りをしたが家族が泊れる環境作りをして支援し、病院ではコロナ禍で出来なかったであろう事もスムーズに行え感謝された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルを作成して、緊急時の具体的対応法は研修もして実践に繋げている。 AED、心肺蘇生の講習も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会社内防災センター主導により、避難経路、消火器の使い方等訓練を定期的に行っている。 年2回の避難訓練も行っている。	地震、防災活動隊の役割分担も決め「万が一」に備えている。台所から出火想定で避難誘導のやり方、消火、通報の訓練等を行っている。今年度は消防署からAED講習会を開催して貰った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生を長く生きてこられた方への尊敬の気持ちを持って接し、プライバシーに関することは本人様の前で話したり、他の方に聞こえないように小声で話したりと配慮するように心がけている。	人生の先輩として敬い、プライバシーや個人情報に配慮した対応をしている。居室も廊下から見えない様にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表現しやすいように、空いた時間に利用者に関わってお話したりと、コミュニケーションをとりながら自己決定して頂ける様な声掛けを行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑での生活リズムはあるが、起床時間やレクへの参加、本人が昼頃傾眠の様子が見られるか散歩への声掛けに対しての本人の意向を確認しながら、その方に合わせて過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、パジャマから私服に着なおしたり、髪やひげを剃ったりと身だしなみを整えてもらっている。利用者同士でネイルを塗られたり、家族の了解を得て、ピアスをつけたり、独自におしゃれを楽しんでおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者全員にアンケートをとり、食べたいものをメニューやおやつの中に取り入れられたりと食べる楽しみを感じてもらえるようにした。コロナ禍の為外食は難しいが、お誕生日には希望される食事の提供をしている。食事の味噌汁づくりや盛り付け・膳拭きなど利用者に手伝ってもらっている。	利用者の希望を取り入れたり、季節、旬を感じられる献立を工夫している。雰囲気を変えて苑庭に敷物を敷いて外から料理を持って来て貰って食事を楽しむ事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量は必ずチェックをしている。又、バイタルチェックでの健康状態や体調に合わせて水分量の調整等も行っている。食事の形態はその時の体調に合わせて変更し体重の増減に合わせた食事量を摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に自力で行って頂き、義歯のみ洗ったり、うがいや手伝いをしたり、一人一人その方に合わせて支援をしている。歯周病が気になる方には口腔内洗浄液を使用したり、家族の要望もあり、電動歯ブラシを使用している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてチェックし、利用者に応じた時間にトイレの声掛けを行っている。ズボンの上げ下げなど自分でできることはしてもらい排泄の自立が出来るように支援している。利用者に応じた声掛けやパッドの種類等も検討している。	メーカーの協力を得てハビリパンツや適切なパットの当て方、一人ひとりに適した下着の着用を検討し自立支援に取り組んでいる。トイレ誘導する事で布パンツでの失禁が防げる様になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表にて一人一人把握し、適切な運動、散歩、牛乳等の水分補給を心がけており、看護職員とも相談しながら、下剤や座薬を使用する利用者もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定をし、利用者のタイミングに合わせて声掛けを行っている。小柄な利用者には湯船に浮かばないように入浴用のいすを使って工夫をしたりしている。	花の香りがする入浴剤や柚子湯にしたりして利用者の体調に合わせた支援をしている。入浴時顔パックし入浴後は化粧水で顔を整えて楽しんでいる利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体や精神的な状況により、居室で眠ることに不安感が強い方にはリビングにベッドを移動している。臥床は難しくても、机の上にクッションを置いたり、足台を利用したり、本人の楽な姿勢で体勢をとれるように工夫している。眠剤を服用しておられる方の睡眠状態も把握している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬早見表で職員全員が薬の内容を把握できるようにしている。薬のセット・服薬時には職員2名で確認し、確実に服薬されたか見届けている。処方変更時は利用者の様子を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれに応じた役割を楽しんで頂いている。具体的には、全員参加のカラオケ作品作りなど。又、個人的に脳トレ、塗り絵など行って頂いている。夜会の名前を以前働いておられた店の名前を借り、利用者へ接客してもらい、楽しんで頂くことができた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数での短い時間でのドライブで外出する代わりにテイクアウトの食事を苑庭、ラウンジで召し上がって頂いている。「つくしが食べたい」と希望があり、利用者の方と取りに行き、苑にて食べる事ができた。	家族との外出、外泊は出来ないが感染対策をして人ごみを避け花見、新緑、生れ育った場所の海を見にドライブに出掛けたりしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数千円ぐらいのお金は自己管理をされている方もいる。又、ご家族や本人からの預金は事務所で管理をして買物や飲食などで支払いをされるなどの工夫をしているが昨年からコロナウィルス感染症のため殆ど出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望があれば時間帯を考慮してお話してもらったり、携帯をお持ちの方には充電や使い方もお手伝いしている。又、ライン電話等もお話できるように支援している。手紙やハガキのやり取りもご希望にそって切手や投函などのお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに作品を季節ごとに張り替えたり、花を飾ったりして季節を感じてもらえるよう工夫している。又、リビングの隣に台所があり、揚げ物や、焼き魚、煮物などの馴染みのおいものの中で洗濯物を畳んだり、お膳拭きをしたり毎日の当たり前のことで生活していると感じてもらっている。昨年からはコロナウィルス感染防止のためパーテーションを使用したり、消毒なども徹底して行っている。	明るくゆったり過ごせる空間である。ソファ、テーブルで思い思いのスタイルで寛げる様に工夫している。利用者の書いた習字、季節の飾り物を壁に貼り、雑誌、新聞が置かれている。除菌消毒の徹底を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑庭やラウンジにベンチやソファを置き、散歩の際に休憩を出来るようにしている。苑庭にはひな人形、鯉のぼり等、季節の物を展示したり、ラウンジには図書館を設置し、ゆっくりと過ごして頂くようにしている。時には夜会をひらきカラオケや飲食などをし、楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族写真や自分が作った作品、好きな置物、テーブルや椅子を設置し、居心地の良い空間にしている。本が好きな方にはスタンドを用意し、図書館から借りてきた本を好きな時に好きな体勢で読んで頂くようにしている。	自分好みの置物を飾りお気に入りのポスターを貼る等、利用者に合わせて居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	料理の盛り付けや、洗濯物の干し、畳み、1階の苑の水やりなど、その方の出来るお手伝いをして頂いている。その方の体調や希望に合わせて、ホールにソファやベッドを置き、いつでも休んで頂けるようにしている。		